

つれづれ

平成28年12月14日(水)

時にはゆっくり書いてみる



ワープロソフトの普及により、書類作成で文字を書くことが少なくなりました。限られた時間で、多くの仕事をこなすには、手書きよりもはるかに効率的です。

しかし、人の話を聞きながら記録を取ったり、人にメモを渡したりする時などは、手書きの方が明らかに便利です。

また、礼状などの手紙を認める^{※1}（したためる）ときは、手書きのほうが気持ちが伝わるという思いから、私信^{※2}（ししん）は手書きにしています。

文化庁が2015年に実施した国語に関する世論調査では、文字を手書きする機会が「あまりない」「ない」と答えた人の計が27.3%もいたそうです。

その一方では、「手書きの習慣を大切にすべきだ」と考える人は91.5%に達し、その理由として「手書きには個性が表れる」などの意見が目立ったということです。

先日、あるイベントの申し込み用紙に、約80名の名前を手書きしなければなりません。人の名前ですので乱雑に書くわけにもいかず、一人一人の名前をできるだけ丁寧に書きました。全員の名前を書き終えるのに、30分以上の時間がかかりました。

最初は面倒だと思っていたのですが、ゆっくり丁寧に書くうちに、心が落ち着くような感覚を覚えました。不思議なもので、30人、40人と書き進めると雑念が無くなっていくのです。これこそが、手書き文化の魅力や効用の一つだと感じました。

皆さんは学生ですから、先生の板書を写すなど、文字を書く場面が多くあります。しかし、一文字一文字をゆっくりと書くことはあまりないかもしれません。文学作品の一節を書き写してみたり、手紙を認めるなど、時にはゆっくり文字を書いてみて、手書きの魅力に触れてみてはいかがでしょうか。

※1 認める：書類・手紙を書き整える ※2 私信：私用の個人的な手紙

＜保護者の皆様へ＞

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

【大阪市教育委員会 天下茶屋中学校】で検索



QR code

天下茶屋中学校HP → <http://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=j762750>